



11月ほけんたより



2024.11
社会福祉法人寿康会
認定未来子ども園
看護師 浅倉和子

つい先月の中頃まで「暑い暑い!」と言っていたのがまるで嘘の様突然秋が来てしまった様な気温に驚きですね。

先日秋の健康診断が園医であり富士病院小児科の内木場(うちば)医師により行なわれました。

これは毎年指摘される事なのですが、全園児の約12~14%に「皮脂欠乏性乾燥肌」と診断されました。

子どもの肌は薄くてとてもデリケートです。

皮膚が乾燥する事により『痒み(かゆみ)』を生じ、爪で肌を掻く事により、増々かゆくなり、さらに掻きこわしてしまう事になります。

この掻きこわしから常在菌のひとつでもある黄色ブドウ球菌等に感染し化膿すると、おでき 或いは とびひ になる事があります。

この様に悪化してしまうと皮膚科又は小児科を受診して、抗生剤等の塗り薬や内服薬を処方される事になります。

そこまで悪化してしまう前に、入浴後 や 外出の前後 等に幼児用の保湿クリームやローション等を使用し、健やかな肌を守りましょう。



これから冬に何かい空気は増々乾燥し、室内ではこれからストーブやエアコン等の暖房具類の使用も乾燥の原因となります。

加湿器や洗濯物の室内干し、又濡れタオル等を利用して上手に乾燥から守りましょう。

又、部屋の湿度を保つ事は肌荒れや肌の乾燥を防ぐと共に風邪症候群や、インフルエンザ等の感染リスクを軽減する事にもつながります。

※健康診断の結果通知書に「所見あり」に印が合った場合必ず、その後の対応や経過等をお知らせ頂きますようお願い致します。

